

目 次

第 67 期四半期報告書

【表紙】

第一部 企業情報	1
第 1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 事業の内容	1
第 2 事業の状況	2
1. 事業等のリスク	2
2. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3. 経営上の重要な契約等	3
第 3 提出会社の状況	4
1. 株式等の状況	4
2. 役員の状況	5
第 4 経理の状況	6
1. 四半期連結財務諸表	7
2. その他	17

第二部 提出会社の保証会社等の情報	18
-------------------	----

四半期レビュー報告書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月13日
【四半期会計期間】	第67期第3四半期(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)
【会社名】	日亜鋼業株式会社
【英訳名】	NICHIA STEEL WORKS, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 国峰 淳
【本店の所在の場所】	兵庫県尼崎市中浜町19番地
【電話番号】	06 (6416) 1021 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 沖垣 佳宏
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋2丁目5番18号 日亜鋼業株式会社 東京支店
【電話番号】	03 (5524) 5501
【事務連絡者氏名】	東京支店長 柏原 隆樹
【縦覧に供する場所】	日亜鋼業株式会社 東京支店 (東京都中央区京橋2丁目5番18号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第 3 四半期 連結累計期間	第67期 第 3 四半期 連結累計期間	第66期
会計期間	自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年12月31日	自 平成30年 4 月 1 日 至 平成30年12月31日	自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日
売上高 (千円)	21,036,260	23,229,489	28,281,124
経常利益 (千円)	1,106,472	1,136,630	1,258,720
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	655,863	595,456	764,883
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,576,150	△306,203	1,229,679
純資産額 (千円)	46,470,186	45,231,061	46,123,666
総資産額 (千円)	65,818,047	64,881,101	65,519,730
1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	13.55	12.30	15.80
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	66.2	65.7	66.0

回次	第66期 第 3 四半期 連結会計期間	第67期 第 3 四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月 1 日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月 1 日 至 平成30年12月31日
1 株当たり 四半期純利益 (円)	4.94	9.21

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後 1 株当たり 四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年 2 月16日）等を第 1 四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第 3 四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっている。

2 【事業の内容】

当第 3 四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社についても異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものである。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っている。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や民間設備投資がやや持ち直すとともに、雇用情勢が逼迫し企業業績が改善するなど、景気が緩やかに回復している状況にある。

一方、線材加工製品業界においては、建築向け及び製造業向けの需要が回復傾向にあるものの、土木向けの需要低迷に加え、獣害防護柵に関する公共予算の一層の縮小等により、市場環境は依然として厳しい状況が継続している。また、主原料価格の上昇等の大幅なコストプッシュに直面しており、これらの調達コスト増を製品価格に適切に転嫁することが収益を確保する上で不可欠となっている。

このような状況の中、当社グループは収益改善に向けて積極的に取り組んだ結果、財政状態及び経営成績は以下のとおりとなった。

a. 財政状態

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は64,881百万円となり、前連結会計年度末に比べ638百万円の減少となった。流動資産は32,127百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,450百万円の増加となった。これは主に受取手形及び売掛金と電子記録債権の増加によるものである。固定資産は32,753百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,089百万円の減少となった。これは主に投資有価証券と長期貸付金の減少によるものである。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は19,650百万円となり、前連結会計年度末に比べ253百万円の増加となった。流動負債は12,778百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,535百万円の増加となった。これは主に1年内返済予定の長期借入金の増加によるものである。固定負債は6,871百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,281百万円の減少となった。これは主に長期借入金の減少によるものである。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は45,231百万円となり、前連結会計年度末に比べ892百万円の減少となった。この結果、自己資本比率は65.7%となった。

b. 経営成績

当第3四半期連結累計期間の経営成績については、売上高は品種構成の好転を含めた販売価格の改善並びに販売数量の増加により、23,229百万円と前年同期に比べ2,193百万円（10.4%）の増収となった。

利益面においては、販価改善や数量増に加え、増産効果及び各種コスト削減等により、営業利益は882百万円と前年同期に比べ80百万円（10.0%）の増益、経常利益は1,136百万円と前年同期に比べ30百万円（2.7%）の増益となったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は災害による損失を計上したこと等により、595百万円と前年同期に比べ60百万円（△9.2%）の減益となった。なお、被災した資産には保険を付保しており保険金の一部を受取っている。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりである。

また、セグメント利益は、営業利益ベースの数値である。

普通線材製品

普通線材を素材とした各種めっき鉄線、また、めっき鉄線を素線とした加工製品からなり、公共土木向けの落石防止網、じゃかご及び民間向けの各種フェンス等に使用されている。

売上高は、販売価格の改善及び国内製造業向けの販売数量の増加等により、7,564百万円と前年同期に比べ492百万円（7.0%）の増収となった。

セグメント利益は、主原料価格上昇等によるコスト増を販価改善や数量増、コスト削減等の収益改善が上回ったことにより、482百万円と前年同期に比べ33百万円（7.6%）の増益となった。

特殊線材製品

特殊線材を素材とした硬鋼線、各種めっき鋼線、鋼平線、鋼より線、ワイヤロープ等からなり、電力・通信産業向け、自動車産業向け及び公共土木向け等、多岐に渡って使用されている。

売上高は、販売価格の改善並びに烟台基威特鋼線製品有限公司が新たに連結対象に加わったこと等により、11,249百万円と前年同期に比べ796百万円（7.6%）の増収となった。

セグメント利益は、主原料価格上昇等によるコスト増に対して、販価改善や数量増、コスト削減等の収益改善が上回ったものの、在庫評価益の大幅な減少等により、155百万円と前年同期に比べ96百万円（△38.2%）の減益となった。

鉚螺線材製品

鉚螺線材を素材としたトルシア形高力ボルト、六角高力ボルト及びG Nボルト等からなり、主として建築業向けに使用されている。

売上高は、販売価格の改善及び販売数量の増加等により、3,839百万円と前年同期に比べ859百万円（28.9%）の増収となった。

セグメント利益は、主原料価格上昇等によるコスト増を販価改善や数量増等の収益改善が上回ったことにより、185百万円と前年同期に比べ149百万円（422.6%）の増益となった。

不動産賃貸

主に賃貸用不動産を所有・経営している。

売上高は、102百万円と前年同期とほぼ同額（△0.2%）となり、セグメント利益も63百万円と前年同期とほぼ同額（1.0%）となった。

その他

めっき受託加工及び副産物の売上高は、474百万円と前年同期に比べ44百万円（10.4%）の増収となったが、セグメント損失は4百万円と前年同期に比べ7百万円（前年同期は2百万円の利益）の減益となった。

(2) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は22百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	117,243,000
計	117,243,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	51,755,478	51,755,478	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株である。
計	51,755,478	51,755,478	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年12月31日	—	51,755,478	—	10,720,068	—	10,888,032

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿により記載している。

① 【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,357,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 48,335,400	483,354	—
単元未満株式	普通株式 63,078	—	—
発行済株式総数	51,755,478	—	—
総株主の議決権	—	483,354	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株(議決権13個)含まれている。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が12株含まれている。

② 【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日亜鋼業株式会社	兵庫県尼崎市中浜町19番地	3,357,000	—	3,357,000	6.49
計	—	3,357,000	—	3,357,000	6.49

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年 3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,510,475	11,826,645
受取手形及び売掛金	※1 8,038,867	※1 8,883,918
電子記録債権	※1 1,914,308	※1 2,409,241
有価証券	300,564	-
製品	5,299,852	5,351,415
仕掛品	920,071	964,828
原材料及び貯蔵品	2,167,471	2,239,952
その他	529,989	457,269
貸倒引当金	△4,757	△5,450
流動資産合計	30,676,842	32,127,821
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,048,156	3,901,788
機械装置及び運搬具（純額）	3,414,437	3,494,432
土地	9,110,955	9,110,955
建設仮勘定	44,084	173,748
その他（純額）	160,121	151,442
有形固定資産合計	16,777,755	16,832,367
無形固定資産		
ソフトウェア	513,603	440,518
ソフトウェア仮勘定	53,152	-
その他	4,351	4,009
無形固定資産合計	571,106	444,527
投資その他の資産		
投資有価証券	15,592,026	13,879,781
長期貸付金	403,742	-
退職給付に係る資産	173,726	183,427
繰延税金資産	2,081	139,098
破産更生債権等	175,154	-
その他	1,272,701	1,302,897
貸倒引当金	△125,407	△28,821
投資その他の資産合計	17,494,025	15,476,384
固定資産合計	34,842,887	32,753,280
資産合計	65,519,730	64,881,101

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年 3 月31 日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成30年12月31 日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※1 3,515,066	※1 3,684,971
電子記録債務	※1 2,187,462	※1 2,339,410
短期借入金	2,012,957	2,076,000
1年内返済予定の長期借入金	734,000	2,750,000
未払金	799,993	826,203
未払法人税等	345,542	229,382
賞与引当金	235,171	71,914
災害損失引当金	-	183,169
その他	412,456	617,488
流動負債合計	10,242,650	12,778,540
固定負債		
長期借入金	6,001,000	3,861,000
繰延税金負債	1,011,928	814,406
役員退職慰労引当金	177,632	193,819
退職給付に係る負債	1,913,178	1,946,629
その他	49,674	55,643
固定負債合計	9,153,413	6,871,499
負債合計	19,396,063	19,650,040
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,720,068	10,720,068
資本剰余金	10,888,051	10,888,051
利益剰余金	20,969,548	21,048,610
自己株式	△1,021,075	△1,021,299
株主資本合計	41,556,593	41,635,431
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,426,527	669,986
繰延ヘッジ損益	-	118
為替換算調整勘定	367,517	382,223
退職給付に係る調整累計額	△96,078	△82,803
その他の包括利益累計額合計	1,697,965	969,524
非支配株主持分	2,869,107	2,626,106
純資産合計	46,123,666	45,231,061
負債純資産合計	65,519,730	64,881,101

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
売上高	21,036,260	23,229,489
売上原価	16,956,384	18,780,881
売上総利益	4,079,876	4,448,608
販売費及び一般管理費	3,277,956	3,566,099
営業利益	801,920	882,509
営業外収益		
受取利息	104,569	92,862
受取配当金	228,351	243,539
有価証券売却益	5,723	5,443
太陽光売電収入	47,235	46,345
受取賃貸料	22,165	24,131
雑収入	43,428	21,896
営業外収益合計	451,475	434,219
営業外費用		
支払利息	51,851	56,613
持分法による投資損失	59,620	75,156
太陽光売電原価	29,077	26,628
雑支出	6,372	21,700
営業外費用合計	146,922	180,099
経常利益	1,106,472	1,136,630
特別利益		
投資有価証券評価益	-	16,065
固定資産売却益	-	57
災害による保険金収入	-	※1 65,307
特別利益合計	-	81,430
特別損失		
投資有価証券評価損	111	-
固定資産除売却損	7,132	23,841
解体撤去費用	25,662	35,415
災害による損失	-	※2 321,556
特別損失合計	32,905	380,812
税金等調整前四半期純利益	1,073,566	837,248
法人税等	356,572	352,374
四半期純利益	716,993	484,873
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	61,130	△110,582
親会社株主に帰属する四半期純利益	655,863	595,456

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	716,993	484,873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	806,192	△768,887
繰延ヘッジ損益	54	215
為替換算調整勘定	75	△19,869
退職給付に係る調整額	32,083	20,939
持分法適用会社に対する持分相当額	20,750	△23,475
その他の包括利益合計	859,156	△791,076
四半期包括利益	1,576,150	△306,203
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,503,797	△174,525
非支配株主に係る四半期包括利益	72,353	△131,677

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項なし。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)	
連結の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間より、重要性が増した烟台基威特鋼線製品有限公司を連結の範囲に含めている。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)	
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示している。	

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理している。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理している。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	644,754千円	549,695千円
電子記録債権	495,986千円	388,295千円
支払手形	191,666千円	182,773千円
電子記録債務	704,571千円	633,347千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
TSN Wires Co., Ltd.	644,700千円 (189,617千THB)	642,231千円 (188,337千THB)

(四半期連結損益計算書関係)

※1 災害による保険金収入

平成30年9月の台風被害による損失に対する保険金の一部入金額である。

※2 災害による損失

平成30年9月の台風被害による損失額を計上しており、その内訳は被災した資産の復旧工事費用、固定資産除却損、棚卸資産処分損、操業休止期間中の固定費である。このうち、災害損失引当金繰入額は183,169千円である。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	1,180,571千円	1,134,327千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	145,199	3	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金
平成29年11月10日 取締役会	普通株式	145,198	3	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項なし。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月28日 定時株主総会	普通株式	193,596	4	平成30年3月31日	平成30年6月29日	利益剰余金
平成30年11月9日 取締役会	普通株式	145,195	3	平成30年9月30日	平成30年12月5日	利益剰余金

(注) 平成30年6月28日定時株主総会における1株当たり配当額には創業110周年記念配当1円が含まれている。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項なし。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	普通線材 製品	特殊線材 製品	鉅螺線材 製品	不動産 賃貸	計				
売上高									
外部顧客への売上高	7,072,001	10,452,451	2,979,745	102,419	20,606,618	429,641	21,036,260	—	21,036,260
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,072,001	10,452,451	2,979,745	102,419	20,606,618	429,641	21,036,260	—	21,036,260
セグメント利益	448,351	252,392	35,436	63,074	799,254	2,665	801,920	—	801,920

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、めっき受託加工等を含んでいる。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	普通線材 製品	特殊線材 製品	鉅螺線材 製品	不動産 賃貸	計				
売上高									
外部顧客への売上高	7,564,142	11,249,086	3,839,602	102,222	22,755,053	474,436	23,229,489	—	23,229,489
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7,564,142	11,249,086	3,839,602	102,222	22,755,053	474,436	23,229,489	—	23,229,489
セグメント利益又は 損失(△)	482,315	155,973	185,198	63,677	887,165	△4,655	882,509	—	882,509

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、めっき受託加工等を含んでいる。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致している。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

(金融商品関係)

前連結会計年度末(平成30年3月31日)

(単位：千円)

科目	連結 貸借対照表計上額	時価	差額	時価の算定方法
受取手形及び売掛金	8,038,867	8,038,867	—	(注) 1
電子記録債権	1,914,308	1,914,308	—	(注) 1
有価証券及び投資有価証券	12,636,906	12,636,906	—	(注) 2
長期貸付金	403,742	451,109	47,367	(注) 3
デリバティブ取引(※1)	—	—	—	(注) 4

(※1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示している。

当第3四半期連結会計期間末(平成30年12月31日)

企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められるものは、次のとおりである。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含めていない。

(単位：千円)

科目	四半期連結 貸借対照表計上額	時価	差額	時価の算定方法
受取手形及び売掛金	8,883,918	8,883,918	—	(注) 1
電子記録債権	2,409,241	2,409,241	—	(注) 1
有価証券及び投資有価証券	11,405,041	11,405,041	—	(注) 2
長期貸付金	—	—	—	(注) 3
デリバティブ取引(※1)	310	310	—	(注) 4

(※1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示している。

(注) 1. 受取手形及び売掛金並びに電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(注) 2. 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券、投資信託等は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっている。

なお、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は、次のとおりである。

(単位：千円)

区分	平成30年3月31日	平成30年12月31日
非上場株式	3,205,683	2,424,740
その他	50,000	50,000

(注) 3. 長期貸付金

これらの時価については、その将来キャッシュ・フローをスワップレート等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値より算定している。

(注) 4. デリバティブ取引

これらの時価については、取引金融機関から提示された価格によっている。

(有価証券関係)

前連結会計年度末(平成30年3月31日)

その他有価証券

区分	取得原価(千円)	連結貸借対照表 計上額(千円)	差額(千円)
株式	4,406,200	6,204,962	1,798,762
債券			
社債	4,089,605	4,295,334	205,729
その他	1,865,400	1,904,368	38,968
その他	200,675	232,241	31,566
計	10,561,880	12,636,906	2,075,025

当第3四半期連結会計期間末(平成30年12月31日)

その他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められる。

その他有価証券

区分	取得原価(千円)	四半期連結貸借対照表 計上額(千円)	差額(千円)
株式	4,591,410	5,345,600	754,189
債券			
社債	3,889,605	4,055,612	166,007
その他	1,765,400	1,781,767	16,367
その他	189,304	222,060	32,756
計	10,435,720	11,405,041	969,320

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益	13円55銭	12円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	655,863	595,456
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	655,863	595,456
普通株式の期中平均株式数(株)	48,399,656	48,398,649

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

平成30年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 145,195千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 3円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成30年12月5日 |

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払を行う。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2 月 12 日

日亜鋼業株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小	林	礼	治	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	安	田	智	則	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日亜鋼業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日亜鋼業株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。